

具体的な事例 ④

■ 疾患

乳がん

■ 薬剤

オキファスト注を機械式 PCA ポンプ（CADレガシー）により持続投与

■ ケース

- 対応していた訪問看護ステーションの看護師がCADポンプの使い方に不慣れであったため、薬局薬剤師が訪問看護師に帯同し、患者宅でポンプの使用方法（接続方法も含む）を指導していた。

■ 対応薬剤師の意見

- **薬剤師は、麻薬のカセットや機械の取り扱いに精通している**のに、いざ繋ぎ変えるという行為になった時には何もできないのが現状です。
- 一方で、**在宅医療現場では、医師も看護師も「薬剤師でもやってほしい」と感じている**ので、**薬剤師にこの資格が無いことに、もどかしさを感じます。**

具体的な事例 ⑤

■ 疾患

乳がん ステージⅣ

■ 薬剤

エルネオパNF1号輸液、10%塩化ナトリウム注

■ ケース

- 入院中に体外式カテーテルにて高カロリー輸液を24時間持続投与しており、退院後も高カロリー輸液の処方が継続されることとなり、無菌調製のできる当薬局で担当することとなった。
- 点滴の交換は訪問看護師が毎日実施し、流速は30ml/hだった。毎週木曜日はルート交換（週1回）だった。
- 薬剤師が初回訪問する前日に退院となり、退院日に病院医師の診察、入院中と同じ輸液が退院時処方されたが、退院時処方の輸液は混注されずに患者に手渡され、患者宅にそのまま置かれていた。
- 混注してほしいと当薬局に依頼あり混注を実施、翌日の訪問看護師の訪問時間までに受け渡しが出来たものの、薬局薬剤師も突然の対応を迫られ、**訪問看護師とのスケジュールを合わせることに苦労**した。

■ 対応薬剤師の意見

- **薬局も訪問看護ステーションも大変な業務量の中、日タイレギュラーに対応しながら頑張っています。**
- 今回のケース、**薬局薬剤師で繋ぎ替えができていれば、お互い大変なスケジュール調整をしなくても済むので、そうなってほしい**と切に思います。